

南北およそ60<sup>キ</sup>におよぶ鈴鹿山脈のほぼ中央に位置する御在所岳は、名実ともに鈴鹿の顔であり、鈴鹿を代表する秀峰である。登山コースも変化に富み、初心者から上級者まで、体力や技術に応じて存分に楽しめるのもこの山のよさであろう。

御在所岳はまた観光の山でもある。年間



御在所岳全景。長石谷の堰堤から見上げる

200万人近い観光客が訪ねる山麓湯ノ山温泉との関連があることはいうまでもないが、昭和39年のロープウェイ開通以来、山上一帯が公園化されたことや、春の草花、秋の紅葉、冬の樹氷など、この山の四季を彩る自然の美しさが、多くの人々を魅了するからである。

登山コースは数多く開かれている。湯ノ山温泉からの主なものだけでも、裏道、中道、一ノ谷新道、表道、峠道がある。いずれのコースにも個性があつて、同じ山とは思えないような特色をもっている。本書では以上のコースのなかから、登りは最もポピュラーな裏道を、下山はアルペン的な雰囲気が増す中道を選んで紹介したい。

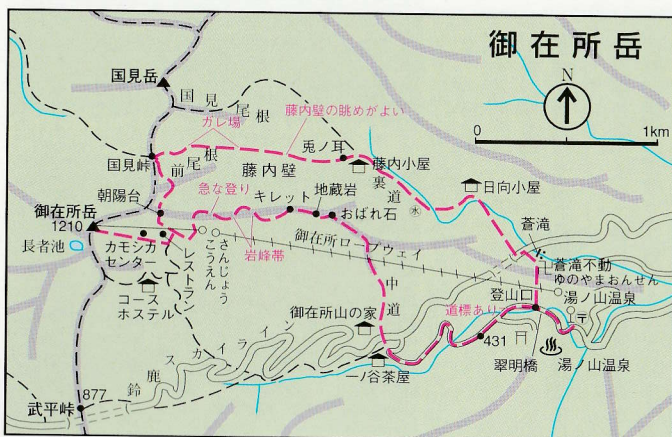
三重交通バスの終点、湯ノ山温泉より温泉街に入り、三滝川にかかる2つ目の翠明橋を渡って直進したすぐのところに裏道の登山口がある。蒼滝不動からスカイラインの下をくぐり、北谷の清流に沿って50分ほど歩くと藤内小屋に着く。

兎ノ耳からは、石のゴロゴロ道となり、登りもきつくなる。藤内沢の出合で左に眼を凝らすと、岩の殿堂、藤内壁と前尾根が木の間越しに望める。突きあがるような前尾根の岩稜を左に見ながら歩を進めているうちに国見峠に出る。峠を左折、滑りやすい急坂を登ると山上の遊歩道に突き当たる。

御在所岳山上、朝陽台からの展望は抜群である。鎌ガ岳の鋭峰が特に印象的だ。リフトのある北東のピークが山頂である。遊歩道沿いの草花やカモシカセンターなどの施設を見ながら山頂までの散策をおすすめしたい。

下山は中道をとる。登ってきた裏道を「静」とすれば、この中道は岩稜と奇岩が連続する「動」のコースといえよう。したがって転落や落石には十分に注意すべきである。

下山早々急崖の下りとなるほか、岩壁下のトラバースやクレットの登攀もある。また途中にはおばれ石や地藏岩などの奇岩が点在するなど、スリルと景観の両方が楽しめる。登山道は一本、迷う心配はない。スカイラインの下をくぐり、一ノ谷茶屋を経て湯ノ山温泉バス停まで2時間あまりの行程である。



#### 登山適期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

#### 登山シーズン

四季それぞれに楽しめるが、可憐な草花やシロヤシオ、アカヤシオ、ドウダンなどの花木の咲き乱れる春が最適。次はやはり紅葉の秋。樹木の見られる冬も別な趣があつてよい。

#### 参考コースタイム

近鉄湯ノ山線湯ノ山温泉駅(三重交通バス10分)湯ノ山温泉バス停(20分)蒼滝不動(50分)藤内小屋(1時間20分)国見峠(20分)御在所岳(1時間)クレット(40分)一ノ谷茶屋(30分)湯ノ山温泉バス停(三重交通バス10分)湯ノ山温泉

#### ワンポイントアドバイス

◇御在所岳に多く見られる春の草花は、シモツケソウ、イワキンバイ、キンレイカ、シヨウジョウバカマ、イワカガミ、ハルリンドウなど。花木ではコブシのほか、ベニドウダンをはじめとしたツツジ科の木が多彩。満開時はみごと。

◇蒼滝不動の下に湯ノ山の名所、蒼滝がある。見物しておいて損はない。

◇マイカー利用の場合は、スカイラインの蒼滝橋のところに駐車地がある。

◇山上には遊歩道、リフト、カモシカセンター、レストラン、展望台などの施設がある。世界各地のカモシカを集めたセンターは、一見に値する。

◇中空に浮かぶゴンドラやおばれ石、地藏岩

などの奇岩など、中道には絵になる風景が多い。コブシやアカヤシオなどの咲く4〜5月は特によい。

◇関係市町村問合せ 菰野町観光課 ☎059 3・93・1123

●2万5000図Ⅱ「御在所山」